

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、9月20-21日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を2.25-2.50%から3.00-3.25%へと、3会合連続で0.75%引き上げることと決定しました。

声明文では、冒頭部分の「最近の支出および生産の指標は軟化した」との文言が「最近の支出および生産の指標は緩やかな成長を示す」とわずかに変更されましたが、それ以外の変更はありませんでした。

FOMC参加者の経済見通し(中央値ベース)については、6月以来の発表となりました。金融政策の引締めなどが影響し2022年の実質GDP見通しは1.7%から0.2%に大幅に引下げられ、同様に2023年は1.7%から1.2%へ、2024年は1.9%から1.7%へ引下げられました。インフレ率の見通しは足元の高止まりを反映し、PCEデフレータの2022年は5.2%から5.4%へと引上げられ、2023年、2024年も同様に引上げられました。

また、FF金利予測(ドットチャート)については、2022年末が4.4%(前回:3.4%)、2023年末が4.6%(前回:3.8%)へと大幅に上方修正されました。

パウエル議長は記者会見で、「物価の安定がFRBの責任であり、それが経済活動の基盤になること」を表現を変えて繰り返し述べることでFRBのインフレ抑制に対する強い姿勢を表しました。

質疑応答では、将来の景気後退リスクや利上げ停止に対する質問がありましたが、パウエル議長はインフレ率を2%に抑えられるまでやるべきことを実行するとの金融引締め姿勢を示しました。

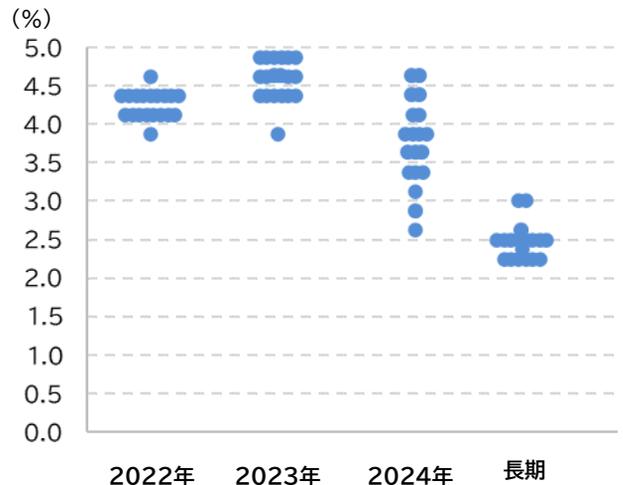
図表1 FOMC参加者の経済見通し
(中央値ベース)

	2022年	2023年	2024年	長期見通し
GDP成長率	0.2%	1.2%	1.7%	1.8%
(前回6月)	1.7%	1.7%	1.9%	1.8%
失業率	3.8%	4.4%	4.4%	4.0%
(前回6月)	3.7%	3.9%	4.1%	4.0%
PCEデフレータ	5.4%	2.8%	2.3%	2.0%
(前回6月)	5.2%	2.6%	2.2%	2.0%
コアPCEデフレータ	4.5%	3.1%	2.3%	-
(前回6月)	4.3%	2.7%	2.3%	-
FFレート(中央値)	4.4%	4.6%	3.9%	2.5%
(前回6月)	3.4%	3.8%	3.4%	2.5%

*GDP成長率、PCEデフレータ、コアPCEデフレータは各年10-12月期の対前年比、失業率は10-12月期の平均値、FFレートは各年末ベース

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測
(ドットチャート)

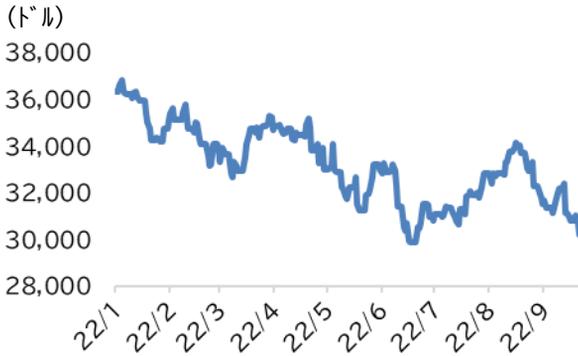


出所:FRBより弊社作成

市場の反応

今回のFOMCで公表されたドットチャートが強い金融引締め姿勢を示す内容だったこと等から、21日の米国株式市場でNYダウは前日比522.45ドル安の30,183.78ドルとなりました。一方、米国10年国債利回りは将来の景気悪化による利下げが意識されたこと等から前日比0.03%低い3.53%で終わりました。外国為替市場の円相場は、ほぼ横ばいの1ドル=144円近辺で推移しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



評価及び今後の見通し

今回のFOMCは3会合連続の0.75ポイントの大幅利上げとなりました。8月のジャクソンホール会議以前は、先物市場が織り込む今回のFOMCにおける利上げ幅は50bpと75bpのおおよそ半々でしたが、同会議のパウエル議長の講演にてインフレ率抑制に対するFRBの強い決意を伝えたことで、先物市場が織り込む利上げ幅は概ね75bpとなりました。その後9月13日に公表されたCPI(米消費者物価指数)が予想を上回ったことから市場の一部では一時100bpの利上げも予想されましたが、結果的には75bpの利上げに収まりサプライズのない結果となりました。

一方で、今回のFOMCで公表されたドットチャートではFF金利の見通しが大幅に引き上げられ、事前予想を上回りました。特に2022年末時点での見通しは4.4%まで引き上げられ、これは残り2回の会合で合計1.25%の追加利上げを示唆しています。GDP成長率や失業率の見通しは6月と比較して悪化した中で、FRBのインフレ率抑制に対する強い姿勢を改めて確認することとなりました。インフレ率は高止まりしていることから、今後の金融政策についてはドットチャートで示された通り、FRBは金融引締めに対して極めて積極的な姿勢が維持されることが予想されます。

今後の米国長期金利は、利上げや量的引締めによる需給悪化要因が上昇要因となる一方、長期インフレ期待の安定や将来の景気悪化観測が上昇を抑制し、やや広いレンジでの推移を予想します。

株式は、利上げや長期金利の上昇によって景気後退への警戒感が強まっていることが影響し、当面利上げの最終着地が見えない間は方向感が定まりにくい展開を見込んでいます。一方で、米業績見通しは2022年、2023年ともに1ヶタ台後半の増益が見込まれていることや、株価の下落により割高感は後退していることから、金融引締めを受けてインフレが次第に減速し金利が低下に向かうにつれて、株式市場も緩やかな上昇基調に回復すると見えています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
9/21~9/22	日銀金融政策決定会合
10/27	ECB理事会
10/27	7-9月期の米国GDP速報値
11/1~11/2	FOMC

出所: Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。